

****アキュディア™ニコチン酸定量用基礎培地

<p>○基本組成（1L分）</p> <p>カザミノ酸…………… 14 g</p> <p>L-シスチン…………… 400mg</p> <p>DL-トリプトファン…………… 200mg</p> <p>硫酸アデニン…………… 20mg</p> <p>塩酸グアニン…………… 20mg</p> <p>ウラシル…………… 20mg</p> <p>塩酸チアミン…………… 200μg</p> <p>リポフラビン…………… 400μg</p> <p>ビオチン…………… 0.8μg</p> <p>パラアミノ安息香酸…………… 200μg</p>	<p>N.F.XIV(1975)の組成に準拠</p> <p>パントテン酸カルシウム… 400μg</p> <p>塩酸ピリドキシシ…………… 800μg</p> <p>リン酸二水素カリウム…………… 1 g</p> <p>リン酸一水素カリウム…………… 1 g</p> <p>硫酸マグネシウム…………… 400mg</p> <p>硫酸第一鉄…………… 20mg</p> <p>硫酸マンガン…………… 20mg</p> <p>酢酸ナトリウム(無水)…………… 20 g</p> <p>ブドウ糖…………… 40 g</p>	<p>pH7.1±0.1</p>
---	--	------------------

****○使用菌株ならびに保存法

Lactobacillus arabinosus strain 17-5 ATCC 8014

滅菌したアキュディア™乳酸菌保存検出用培地を試験管に高層に凝固させ、菌体を白金線でせん刺し、37℃で18～24時間培養する。培養後は冷所にたくわえ、1週間に1回植継ぎする。

****○接種菌液の調製法

試験管に約5mLずつ分注、滅菌したアキュディア™一般乳酸菌接種用培地(pH6.8±0.1)に試験前日移植、37℃で16～20時間培養後、菌体を遠心分離、滅菌生理食塩液5mLで菌体洗浄操作を3回行い、最後に透過度60～90%の菌体浮遊液を作製、接種菌液とする。

○標準液の調製法ならびにResponseする範囲

ニコチン酸標準原液は、ニコチン酸100μg/mLの25%エタノール溶液。

冷所に保存、有効期間2ヶ月間。

0.02μg～0.2μg/tube(10mL)、0.01μg～0.1μg/tube(5mL)、

0.01μg～0.1μg/tube(2mL)

○基礎培地の調製法ならびに試料添加法

本品7.7gを精製水80～90mLに加えて2～3分間煮沸溶解する。冷却後pH7.1±0.1に補正し、必要ならばろ過して全量を100mLとする。この溶液を培養液量の1/2量(たとえば10mL培養のときは5mL)ずつ培養試験管に分注、Response範囲内の数段階濃度の標準液ならびに被検液を添加後、精製水を加えて試験管の全量を2倍とし、121℃で5分間高圧蒸気滅菌する。

○接種ならびに培養

試料添加の各試験管ならびに無添加の試験管1本に接種菌液を1滴ずつ加え、37℃で16～24時間培養する。

酸滴定の場合は接種菌を薄い側にとり、72時間培養する。

○測定法ならびに注意

ビタミンB12定量法に準ずる。

————— 使用上又は取扱い上の注意事項 —————

1. 一般的な注意事項

- この添付文書をよく読み、記載されている操作法に従って使用してください。
- 使用期限を過ぎた製品は品質を保証できないので使用しないでください。
- 使用前に異物混入等の異常が認められたものは使用せずに製造元まで連絡してください。
- 開封後はなるべく早く使用してください。保存する場合は密栓して汚染、吸湿等に注意してください。

2. 危険防止上の注意事項

- 試薬などが目や口に入った場合には、水で十分に洗い流し、医師等に相談し、指示を受けてください。
- 微生物の取扱いは常に感染の危険性があるので、取扱いにあたっては熟練した人の指導のもとに、バイオハザード対策を実施したうえで使用してください。
- 検体に接触した器具、試薬および試薬容器などは感染の危険があるものとして取扱ってください。

3. 廃棄上の注意事項

使用後の培地・試薬・器具等は、オートクレーブ等で滅菌したのち、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物または産業廃棄物などに区分して処理してください。

————— 貯法・使用期限 —————

〔貯 法〕

冷暗所(2～10℃)で密栓保存。

〔使用期限〕

製造後3年間。

外箱および容器のラベルに使用期限を表示してあります。

**** ——— 包 装 —————

アキュディア™葉酸定量用基礎培地	50g……	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05814</td></tr> </tbody></table>	Code 05814
Code 05814			
アキュディア™ビタミンB6定量用基礎培地	50g……	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05815</td></tr> </tbody></table>	Code 05815
Code 05815			
アキュディア™ニコチン酸定量用基礎培地	50g……	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05816</td></tr> </tbody></table>	Code 05816
Code 05816			
アキュディア™パントテン酸定量用基礎培地	50g……	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05817</td></tr> </tbody></table>	Code 05817
Code 05817			
アキュディア™ビオチン定量用基礎培地	50g……	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05818</td></tr> </tbody></table>	Code 05818
Code 05818			
アキュディア™ビタミンB12定量用基礎培地(セット)〔セットの内容〕	ビタミンB12定量用基礎培地：50g×1本	<table border="1"> <tbody><tr> <td>Code 05819</td></tr> </tbody></table>	Code 05819
Code 05819			
	10%ポリソルベート80溶液：2.0mL×6本		

**** 製造販売元

島津ダイアグノスティクス株式会社

*東京都台東区上野3-24-6 〒110-0005 TEL03(5846)5611（代）
カスタマーサポート担当 TEL03(5846)5707(直通)
(SY3D2S)

****2023年4月改訂

****ライヒマニ用

****アキュディア™ビタミンB12定量用基礎培地

<p>○基本組成（1L分）</p> <p>カザミノ酸…………… 15 g</p> <p>L-シスチン…………… 400mg</p> <p>DL-トリプトファン…………… 400mg</p> <p>硫酸アデニン…………… 20mg</p> <p>塩酸グアニン…………… 20mg</p> <p>ウラシル…………… 20mg</p> <p>キサンチン…………… 20mg</p> <p>塩酸チアミン…………… 1mg</p> <p>リポフラビン…………… 1mg</p> <p>ビオチン…………… 10μg</p> <p>ニコチン酸…………… 2mg</p> <p>パラアミノ安息香酸…………… 2mg</p> <p>パントテン酸カルシウム… 1mg</p> <p>塩酸ピリドキシシ…………… 4mg</p>	<p>U.S.P.XIXの組成に準拠</p> <p>塩酸ピリドキサール…………… 4mg</p> <p>塩酸ピリドキサミン…………… 800μg</p> <p>葉 酸…………… 200μg</p> <p>リン酸二水素カリウム…………… 1 g</p> <p>リン酸一水素カリウム…………… 1 g</p> <p>硫酸マグネシウム…………… 400mg</p> <p>硫酸第一鉄…………… 20mg</p> <p>硫酸マンガン…………… 20mg</p> <p>L-アスパラギン…………… 200mg</p> <p>ブドウ糖…………… 40 g</p> <p>酢酸ナトリウム(無水)…………… 20 g</p> <p>アスコルビン酸…………… 4 g</p>	<p>(別 添)</p> <p>ポリソルベート80…………… 2 g</p> <p>pH6.2±0.1</p>
--	--	---

****○使用菌株ならびに保存法

Lactobacillus leichmannii ATCC 7830

滅菌したアキュディア™ライヒマニ保存用培地を試験管に高層に凝固させ、菌体を白金線でせん刺し、37℃で18～24時間培養する。培養後は冷所にたくわえ、1週間に2回以上植継ぎする。

****○接種菌液の調製法

試験管に約5mLずつ分注、滅菌したアキュディア™ライヒマニ接種用培地(pH6.9±0.1)に試験前日移植、37℃で16～20時間培養後、菌体を遠心分離、培養時濃度の滅菌定量用基礎培地5mLで菌体洗浄操作を3回行い、最後に透過度50%前後の菌体浮遊液を作製、接種菌液とする。

○標準液の調製法ならびにResponseする範囲

25%エタノールで1μg/mL濃度のビタミンB12溶液を作製、標準原液とする。冷所に保存、有効期間2ヶ月間。0.01ng～0.2ng/tube(5mL)(通常0.01ng～0.1ng)

○基礎培地の調製法ならびに試料添加法

本品8.3gをビーカーに採り、精製水80～90mLを加えて2～3分間煮沸溶解する。冷却後pH6.2±0.1に補正し、必要ならばろ過し、ろ液に添付のポリソルベート80溶液2.0mLを加えてからメスシリンダーに移し精製水で全量を100mLとする。この溶液を培養液量の1/2量(たとえば5mL培養のときは2.5mL)ずつ培養試験管に分注、Response範囲内の数段階濃度のビタミンB12標準液ならびに被検液を添加後、精製水を加えて2倍量(5mL)とし、121℃で5分間高圧蒸気滅菌する。

○接種ならびに培養

試料添加の各試験管ならびに無添加の試験管1本に接種菌液を1滴ずつ加え、37℃で16～24時間培養する。酸滴定の場合は72時間培養する。

○測定法

比濁法－光電比色計(540～660nm)を用い、ビタミンB12不含、無接種培地の透過度を100%に合わせ、ビタミンB12不含接種培地の盲検値を100%に合わせて各段階濃度液の透過度を測定して検量曲線を求め、同時に操作した3～5段階濃度の被検体透過度から内挿法でビタミンB12含量を決定する。酸滴定法はBTB試液2～4滴(2mL培養のとき)を加え0.05mol/L NaOHで滴定する。

○注意

※培養温度は一定(±0.5℃以内)でないと正しい定量値がえられない。

※菌株のResponseが悪くなった場合は数日間接種培地または保存培地に毎日植継ぎする。

**アキュディア™ ビタミンB6定量用基礎培地

○基本組成（1L分）	Atkin et al. 法改良組成
カザミノ酸……………	8 g
イノシトール……………	50mg
塩酸チアミン……………	500μg
ニコチン酸……………	5mg
パントテン酸カルシウム…	5mg
ビオチン……………	16μg
塩化カリウム……………	850mg
ブドウ糖……………	100 g
	pH5.2±0.1

- 使用菌株ならびに保存法**

Saccharomyces carlsbergensis strain 4228 ATCC 9080

滅菌したアキュディア™ 麦芽寒天培地を試験管に斜面に凝固させ、菌体を塗抹し、30℃18～24時間培養する。培養後は冷所にたくわえ、1～2週間に1回植継ぎする。
 - 接種菌液の調製法**

前日アキュディア™ 麦芽寒天培地に斜面培養した菌体1白金耳を滅菌生理食塩液適量に懸濁させて、透過度20～30%の接種菌液を作製する。
 - 標準液の調製法ならびにResponseする範囲**

25%エタノールでビタミンB6の200μg/mL溶液を作製する。

2.5ng～25ng/tube(10mL)
 - 冷所に保存，有効期間2ヶ月間。
 - 基礎培地の調製法ならびに試料添加法**

本品13.0gを精製水80～90mLに加えて2～3分間煮沸溶解する。冷却後pH5.2±0.1に補正し，必要ならばろ過して全量を100mLとする。この溶液を5mLずつマイヤーまたは試験管に分注，Response範囲内の数段階濃度の標準液ならびに被検液を添加後，精製水を加えて全体を2倍量(10mL)とし，100℃で10～20分間滅菌する。
 - 接種ならびに培養**

試料添加のマイヤーまたは試験管ならびに無添加のマイヤーまたは試験管1本に接種菌液を5滴ずつ加え，試験管の場合は25度以下に各試験管を等しい傾斜角度を維持させて，30℃で16～24時間培養する。
 - 測定法**

各培養液を2倍に希釈した後，ビタミンB12と同一方式で測定する。
 - 注意**

試験管培養の場合は傾斜角度を一定にしないと定量値に誤差が生ずるから注意を要する。

**アキュディア™ ビオチン定量用基礎培地

**アキュディア™ パントテン酸定量用基礎培地			
○基本組成（1L分）			
カザミノ酸……………	14 g	ニコチン酸……………	1mg
L-シスチン……………	400mg	塩酸ピリドキシン……………	800μg
DL-トリプトファン……………	200mg	リン酸二水素カリウム……………	1 g
硫酸アデニン……………	20mg	リン酸一水素カリウム……………	1 g
塩酸グアニン……………	20mg	硫酸マグネシウム……………	400mg
ウラシル……………	20mg	硫酸第一鉄……………	20mg
塩酸チアミン……………	200μg	硫酸マンガン……………	20mg
リボフラビン……………	400μg	酢酸ナトリウム(無水)……………	20 g
パラアミノ安息香酸……………	200μg	ブドウ糖……………	40 g
ビオチン……………	0.8μg		pH7.1±0.1

ビオチン定量用基礎培地は上記のパントテン酸定量用基礎培地にパントテン酸400μgを添加し，ビオチンを除いたもので，他の成分は同一である。

- 使用菌株ならびに保存法**

Lactobacillus arabinosus strain 17-5 ATCC 8014

滅菌したアキュディア™ 一般乳酸菌保存検出用培地を試験管に高層に凝固させ，菌体を白金線でせん刺し，37℃で18～24時間培養する。培養後は冷所にたくわえ，1週間に1回植継ぎする。
 - 接種菌液の調製法**

試験管に約5mLずつ分注，滅菌したアキュディア™ 一般乳酸菌接種用培地（pH6.8±0.1）に試験前日移植，37℃で16～20時間培養後，菌体を遠心分離，滅菌生理食塩液5mLで菌体洗浄操作を3回行い，最後に透過度60～90%の菌体浮遊液を作製，接種菌液とする。
 - 標準液の調製法ならびにResponseする範囲**

ビオチン標準原液は，ビオチン10μg/mLの50%エタノール溶液。

冷所に保存，有効期間2ヶ月間。
 - 0.2ng～2ng/tube(10mL)，0.1ng～1ng/tube(5mL)，0.05ng～0.5ng/tube(2mL)
 - パントテン酸標準原液は，パントテン酸カルシウム50μg/mLの水溶液。
 - 冷所に保存，有効期間2カ月間。
 - 0.02μg～0.2μg/tube(10mL)，0.01μg～0.1μg/tube(5mL)，0.01μg～0.05μg/tube(2mL)
 - 基礎培地の調製法ならびに試料添加法**

本品7.7gを精製水80～90mLに加えて2～3分間煮沸溶解する。冷却後pH7.1±0.1に補正し，必要ならばろ過して全量を100mLとする。この溶液を培養液量の1/2量(たとえば10mL培養のときは5mL)ずつ培養試験管に分注，Response範囲内の数段階濃度の標準液ならびに被検液を添加後，精製水を加えて試験管の全量を2倍量とし，121℃で5分間高圧蒸気滅菌する。
 - 接種ならびに培養**

試料添加の各試験管ならびに無添加の試験管1本に接種菌液を1滴ずつ加え，37℃で16～24時間培養する。

酸滴定の場合は接種菌を薄い側にとり，72時間培養する。
 - 測定法ならびに注意**

ビタミンB12 定量法に準ずる。

**アキュディア™ 葉酸定量用基礎培地

○基本組成（1L分）		A.O.A.C.12 th Ed(1975)組成に準拠	
カザミノ酸……………	10 g	ニコチン酸……………	800μg
L-シスチン……………	760mg	パントテン酸カルシウム…	800μg
L-トリプトファン……………	200mg	パラアミノ安息香酸……………	1mg
L-アスパラギン……………	600mg	ビオチン……………	20μg
硫酸アデニン……………	10mg	リン酸一水素カリウム……………	6.4 g
塩酸グアニン……………	10mg	硫酸マグネシウム……………	400mg
ウラシル……………	10mg	硫酸第一鉄……………	20mg
キサントシン……………	20mg	硫酸マンガン……………	220mg
グルタチオン……………	5.2mg	クエン酸ナトリウム……………	62.0 g
塩酸チアミン……………	400μg	ブドウ糖……………	40 g
リボフラビン……………	1mg	ポリソルベート80……………	100mg
塩酸ピリドキシン……………	4mg		pH7.1±0.1

- 使用菌株ならびに保存法**

Streptococcus faecalis“R”ATCC 8043

滅菌したアキュディア™ 一般乳酸菌保存検出用培地を試験管に高層に凝固させ，菌体を白金線でせん刺し，30℃で18～24時間培養する。培養後は冷所にたくわえ，1週間に1回植継ぎする。
 - 接種菌液の調製法**

試験管に約5mLずつ分注，滅菌したアキュディア™ 一般乳酸菌接種用培地（pH6.8±0.1）に試験前日移植，30℃で16～18時間培養後，菌体を遠心分離，滅菌生理食塩液5mLで菌体洗浄操作を3回行い，最後に透過度60～90%の菌体浮遊液を作製，接種菌液とする。
 - 標準液の調製法ならびにResponseする範囲**

葉酸標準原液は，0.01mol/L NaOHアルカリ性20%エタノール適量に溶解し，0.1mol/LHClでpH7～8に調整し，20%中性エタノールで希釈して10μg/mL溶液とする。

冷所に保存，有効期間2ヶ月間。
 - 0.5ng～5ng/tube(10mL)，0.2ng～2ng/tube(5mL)，0.05ng～0.5ng/tube(2mL)
 - 基礎培地の調製法ならびに試料添加法**

本品11.4gを精製水80～90mLに加えて2～3分間煮沸溶解する。冷却後pH7.1±0.1に補正し，必要ならばろ過して全量を100mLとする。この溶液を培養液量の1/2量(たとえば10mL培養のときは5mL)ずつ培養試験管に分注，Response範囲内の数段階濃度の標準液ならびに被検液を添加後，精製水を加えて2倍量とし，121℃で5分間高圧蒸気滅菌する。
 - 接種ならびに培養**

試料添加の各試験管ならびに無添加の試験管1本に接種菌液を1滴ずつ加え，30℃で16～24時間培養する。

酸滴定の場合は接種菌を薄い側にとり，72時間培養する。
 - 測定法ならびに注意**

ビタミンB12 定量法に準ずる。